

**令和5年度指定  
WWLコンソーシアム構築支援事業  
(地域アドバンスト・ラーニング・  
ネットワーク構築のための委託事業)  
事業報告書  
第2年次**

令和7年3月

国立大学法人大阪教育大学

# 目 次

I.	事業概要	
	事業計画書	1
II.	事業報告	
	(1) ホームページ	8
	(2) ミニフォーラム等	8
	(3) 教員向けフォーラム等	17
	(4) 成果報告会（国際会議）等	19
	(5) 広報及び人材育成校の拡充	19
III.	会議報告	
	地域アドバンスト・ラーニング・ネットワーク関西ブロック推進委員会	20

# I. 事業概要

## 様式第1（事業計画書）

### 事業計画書

令和6年2月1日

支出負担行為担当官

文部科学省初等中等教育局長 殿

（受託者）住 所 大阪府柏原市旭ヶ丘 4-698-1  
名称及び 国立大学法人大阪教育大学  
代表者名 学長 岡本 幾子

#### I 委託事業の内容

##### 1. 事業名

WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業  
（地域アドバンスト・ラーニング・ネットワーク構築のための委託事業）

##### 2. 事業の目的

将来、新たな社会を牽引し、世界で活躍できるビジョンや資質・能力を有したイノベーティブなグローバル人材を育成するため、高等学校等と国内外の大学、企業、国際機関等が協働する仕組みであるアドバンスト・ラーニング・ネットワーク（ALネットワーク）が全国に構築されている。それらのうち、関西地域に配置された拠点校を中心とするALネットワーク間の連携を進め、イノベーティブなグローバル人材育成を行っている高校（以下、人材育成校）にも取組を拡大させ、WWL事業全体の効果的な実施に資することを本事業の目的とする。

※なお、文部科学省が指定する域内ALネットワーク数については、今後、文部科学省と調整の上、増加予定。

##### 3. 事業の実施期間 契約締結日から 令和7年3月31日

##### 4. 事業の方法

本事業の趣旨は、関西地域の高校が連携することにより、生徒が互いに刺激し合うとともに、新たなカリキュラムの開発とその実現に向けて、教員の資質を向上させることである。その目的のためには、例えば探究活動の発表会においては各ALネットワークが相互に連携しあうことが必要である。また、異なる高校の教員間の情報共有を行うことが鍵となるなど、コミュニケーションの質と量を向上、維持させることが課題となる。コロナ禍を通じて活用が広まったオンラインによる議論などの利点、欠点を十分にふまえ、積極的な対面活動も併用しながらコ

コミュニケーションを図っていく。

令和5年度は関西地域のALネットワークの情報を集約したwebサイトを構築し、関西地域のWVL事業の情報を一元化した。生徒対象のミニフォーラムを複数回、教員向けフォーラムとして、探究活動の充実や指導に関するコンテンツを提供した（記載日現在予定を含む）。生徒対象のミニフォーラムについては対面で実施したが、参加者に課題が残ったので、令和6年度はオンラインやオンデマンドでの開催を検討・実施するとともに、情報提供の時期や方法についても改善する計画である。

令和6年度は、令和5年度に作成したwebサイトを活用し高度な学びを提供する生徒対象のフォーラムの案内や関西地域のALネットワークで主催する高校生国際会議等の取組を、効果的に発信する。それによって、多くの高校生にイノベティブなグローバル人材に繋がる情報を提供したい。教員の資質能力向上については、多忙な中でも教員が有効に活用できるようにオンデマンド教材が有効であると思われるので、引き続きオンデマンドコンテンツの作成を行う。

## I 域内の構成

### ●地域ALネットワーク関西ブロック（以下、関西ブロック）

関西ブロックは以下で構成されている。

#### ・ALネットワーク管理機関及び（カリキュラム開発）拠点校・連携校

##### <管理機関>

国立大学法人大阪教育大学  
学校法人立命館  
大阪府教育委員会  
神戸市教育委員会  
学校法人関西学院  
京都府教育委員会  
学校法人同志社  
学校法人永守学園  
奈良県教育委員会  
滋賀県教育委員会

##### <拠点校>

大阪教育大学附属高校平野校舎  
立命館宇治高校  
大阪府立北野高校  
神戸市立葺合高校  
関西学院高等部  
京都府立鳥羽高校  
同志社国際高校  
京都先端科学大学附属高校  
奈良県立国際高校  
滋賀県立彦根東高校

#### ・イノベティブなグローバル人材を育成する高校（以下、人材育成校）：以下の22校

《滋賀県》 滋賀県立東大津高校

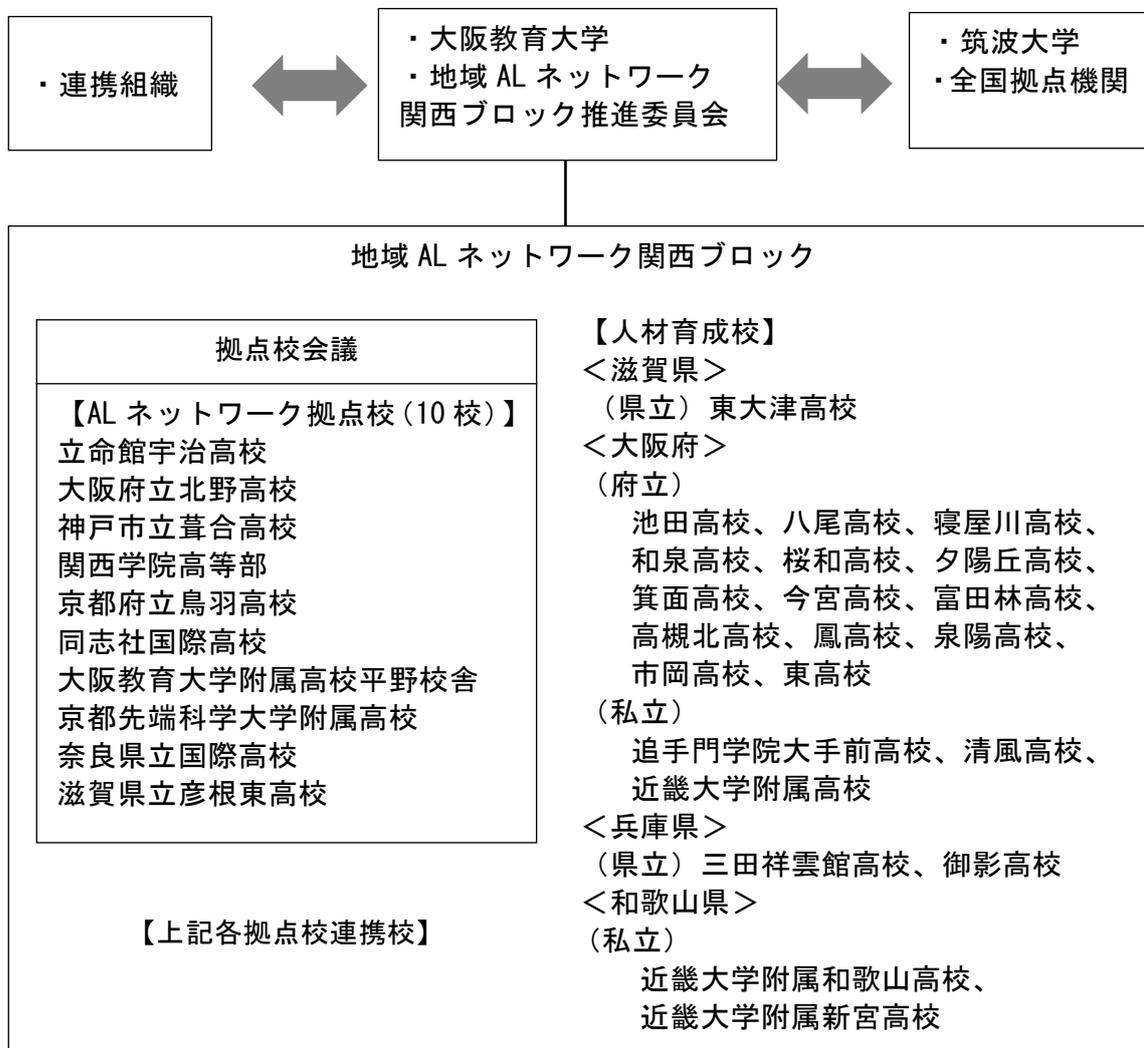
《大阪府》 大阪府立池田高校、大阪府立八尾高校、大阪府立寝屋川高校、大阪府立和泉高校、大阪府立桜和高校、大阪府立夕陽丘高校、大阪府立箕面高校、大阪府立今宮高校、大阪府立富田林高校、大阪府立高槻北高校、大阪府立鳳高校、大阪府立泉陽高校、大阪府立市岡高校、追手門学院大手前高校、清風高校、近畿大学附属高校、大阪府立東高校

《兵庫県》 兵庫県立三田祥雲館高校、兵庫県立御影高校

《和歌山県》 近畿大学附属和歌山高校、近畿大学附属新宮高校

ALネットワーク管理機関及び（カリキュラム開発）拠点校はカリキュラム開発を通じて得られた成果物を提供し、作成したwebサイトや連絡ツールとして活用しているメーリングリストにて情報を提供しており、共有された情報を基に拠点校や連携校はこれまでの活動の発展に活かすことも可能としている。人材育成校は共有された情報を基に自校での取組に活かすことや各拠点校等で実施している発表会や教員向けフォーラム等への参加を通じて、イノベティブなグローバル人材育成に必要となる授業や生徒に対して多くの学びの機会提供を受けることを通じて、人材育成を行う。人材育成校を中心に大学の授業等、高度な学びを提供するミニフォーラムについては、各校のニーズを踏まえ、多くの生徒が参加できるよう魅力あるミニフォーラムを企画する。

## II 事業のプラットフォーム



運営、情報共有体制の中心となるのは、大阪教育大学に設置される地域ALネットワーク関西ブロック推進委員会（以下、推進委員会）である。推進委員会はALネットワーク拠点校会議（以下、拠点校会議）と連携を取りながら、事業を通じたコンテンツの提供の方針等の策定を行う。推進委員会の企画とALネットワークの資源を関西ブロッ

クに提供する。関西ブロックには拠点校からなる拠点校会議を置き、相互の連携を図る。

### Ⅲ 事業の具体的内容

#### (1) ALネットワーク間の連携

##### ①推進委員会（年3回程度）の開催

事業の推進にあたっては、本学の教員を中心に推進委員会を設置し、関西ブロックの統括・連携及び、ミニフォーラムをはじめとするコンテンツの提供の方針を策定する。ミニフォーラム及び教員向けフォーラムに多くの生徒・関係者が参加できる仕組みやテーマ等について検討を行う。

##### ②拠点校会議（年3回程度）の開催

関西地域のALネットワークカリキュラム開発拠点校、拠点校または管理機関から構成される拠点校会議を開催する。関西ブロックの情報共有を推進し、推進委員会が策定したコンテンツの提供の方針を基に、コンテンツの共有に向けて実施計画を策定するとともに、事業のあり方について検討を行う。なお、実施計画は拠点校会議において、年度ごとに事業を振り返り実施計画（ミニフォーラム・教員向けフォーラムの担当校の決定を含む）を策定するとともに、運営上の課題を共有し、課題改善に向けた意見交換を行う。各ALネットワークの特色をふまえ、提供できる取組について情報交換を行い、関西ブロック内で相互にコンテンツを提供・共有する。

##### ③地域ALネットワークwebサイトの運営

令和5年度に作成した関西ブロックの情報共有及び、開発されたカリキュラム・成果物を相互利用するためのwebサイトを運営する。随時、ミニフォーラムや探究活動の取組内容や発表会の情報を発信し、関西ブロックに属する高校生及び教員に成果発表会等のイベントの情報や教員向けの研修会等の情報を提供するwebサイトの運営を行う。令和5年度に各ALネットワークのWWL事業で行う高校生国際会議等の行事や実施時期について情報共有を行った。この有益な情報を令和6年度の広報に役立て、早めの情報発信に努め、多くの高校生が発表会やミニフォーラムに参加できるよう情報発信を行う。各ALネットワークの情報を集約した行事予定をwebサイトに掲載する計画である。

#### (2) 人材育成校との連携

人材育成校は作成したwebサイトから（カリキュラム開発）拠点校の成果物や発表会の情報や教員研修会等の情報を得ることができるようにした。得られた情報を基に教員は、自校での探究活動等の発展に繋げることができ、生徒は自校以外の取組を知り、多くの学びの機会に参加することができるよう、以下の④～⑦を通して、イノベティブなグローバル人材の育成に取り組む。

##### ④ミニフォーラム等（年7回程度）の開催

本学及び、各ALネットワークから高校生向けコンテンツを準備し、ミニフォーラムとして関西ブロックを通じて提供する。探究活動のテーマ着想のヒントとなる題材、

またキャリア構築に向けた題材を主に提供する。コンテンツは拠点校会議において、管理機関となっている大学からの提供を含めて募集する。海外の高校や大学等とのオンラインでの交流会を企画し、グローバル人材育成に繋げる機会を複数回設定する。また、人材育成校へのヒアリング等も踏まえ、ミニフォーラムの内容を検討すると共に著名な研究者による講演を聞く機会等を設け、自身のキャリア形成に繋がる取組も行う。

⑤ 高大連携事業

本学で一部の高校に向けて実施している大学授業の受講について、関西ブロックの管理機関も含めて、人材育成校への拡大に向けて調整を行う。

⑥ 教員向けフォーラム（年4回程度）の開催

拠点校会議において担当校を決め、イノベティブなグローバル人材育成に資する活動に向けた教員向けフォーラムを開催する。教員向けフォーラムにおいては、人材育成校の教員に、授業等を実施するにあたり必要となる資質能力を取得するために先進校のノウハウを提供する。多忙な高校教員が隙間時間に学べるようなオンデマンドで視聴できる研修コンテンツを作成し提供する。本学拠点校や共同実施校でカリキュラム開発した事例（海外研修の内容や取組むにあたってのノウハウをまとめたコンテンツ）や探究活動の評価に関するコンテンツを提供する。

⑦ 人材育成に係る評価指標の活用

本学で開発した探究活動の評価指標を提供し、各校のイノベティブなグローバル人材育成にかかる活動成果の評価を支援する。人材育成校に評価指標を説明し、本学の研究への協力を要請する。

（3）他地域ALネットワークとの連携

⑧ 全国の地域ALネットワーク間の情報共有

名古屋大学、広島大学と情報共有を行い取組の充実を図るとともに、全国的なWWLコンソーシアム構築に向けて連携を図る。

⑨ 成果発表会の連携

関西ブロックの各ALネットワークで行われている探究活動の成果発表会を連携させ、相互参加を促すことで連携の強化を図る。令和5年度に他ALネットワークの成果発表会等に参加できるように各ALネットワークに要請した。相互参加できるようにすることで、新たな学びを得られるとともに、高校生・学校間の交流の促進にもつながる。テーマや成果を拠点校会議で共有し、関西ブロックの活動の活性化を図る。

（4）実施体制の整備

⑩ 自己点検（年1回）の実施

各ALネットワークの活動の自己点検を依頼し、活動を推進委員会で検証する。関西ブロックの自己評価を行うために、基礎資料として各ALネットワークに自己点検を活用し、関西ブロックの活性化を促す。

(5) 広報・普及活動

⑪広報及び人材育成校の拡充

関西ブロックの活動を広報し、従来のWWL事業と関わりがなかった高校にもイノベーターティブなグローバル人材育成の必要性と可能性を普及させるにあたり、作成したwebサイトを案内し、興味・関心を持った高校に資料を送付すると共に事業説明を行う。本事業として立ち上げたwebサイトだけでなく、本学webサイト等も活用し、本事業の取組内容を広く周知し本事業活動の普及に努める。

⑫新規に採択されたALネットワークの地域ALネットワークへの勧誘

今後関西地域に新規のWWL拠点校が採択された際には、拠点校に対し、関西ブロックの情報を提供し、参加を促す。

5. 業務実施体制

業務項目	実施場所	担当責任者
(1) ①推進委員会	大阪教育大学・オンライン	広谷 博史
②拠点校会議	大阪教育大学・オンライン	広谷 博史
③ホームページの運営	大阪教育大学	榎木 泰介
(2) ④ミニフォーラム等の開催	大阪教育大学・オンライン	大内田 裕
⑤高大連携事業	大阪教育大学	裴 光雄
⑥教員向けフォーラムの開催	大阪教育大学・オンライン	寺嶋 浩介
⑦人材育成に係る評価指標の活用	大阪教育大学	仲矢 史雄
(3) ⑧地域ALネットワーク間の情報共有	大阪教育大学	広谷 博史
⑨成果発表会の連携	各ALネットワーク会場	鈴木真由子
(4) ⑩自己点検の実施	大阪教育大学	堀 真子
(5) ⑪広報及び人材育成校の拡充	大阪教育大学	瓜生 彩子
⑫地域ALネットワークへの勧誘	大阪教育大学	瓜生 彩子

6. 事業項目別実施期間

※ 事業計画書作成時のものであり、事業着手は契約締結後に行うものとする。

事業項目	実施期間（契約締結日～令和7年3月31日）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①推進委員会			●				●				●	
②拠点校会議			●				●				●	
③ホームページ	→											
④ミニフォーラム等			●	●	●	●		●		●	●	
⑤高大連携事業	→											
⑥教員向けフォーラム					●			●			●	●
⑦評価指標の活用	→											
⑧地域ALN間情報共有			●				●					

⑨成果発表会									●	●	●	
⑩自己点検											●	
⑪広報及び人材育成校拡充			●					●				
⑫地域 ALN への勧誘		●										

【担当者】

氏 名	役 職 名 (Eメールアドレス)	電話番号	FAX 番号
河 畠 司	附属学校課教育研究係長 (fuzoku@cc.osaka-kyoiku.ac.jp)	072-978-4016	072-978-3262

## Ⅱ. 事業報告

### (1) ホームページ

広島大学が西日本のALネットワークを、名古屋大学が中部地方及び北海道のALネットワークを束ねている。本学は令和5年度より関西地域に所在するALネットワークを取りまとめ、文部科学省が進めるWWLコンソーシアム構築に向けて、事業に取り組んでいる。本事業ではWWL専用ホームページ(以下、webサイト)を作成することが求められており、関西地域に所在するALネットワークの成果を共有するためのwebサイトを昨年度作成した。昨年度から掲載した情報に加え、webサイトには主に以下の内容を掲載している。

- ① 関西地域に所在する拠点校及びイノベティブなグローバル人材を育成する高校(以下、人材育成校)の情報
- ② 本事業概要
- ③ 生徒向けフォーラムのお知らせ(告知)と報告
- ④ 教員向けフォーラムのお知らせ(告知)と報告
- ⑤ イベントカレンダーの掲載

①では関西地域に所在する拠点校のWWLコンソーシアム構築支援事業で得られた成果が掲載されているwebページと人材育成校のwebページへのリンク先を掲載し、本事業に関連する高校の情報を一元化している。②は地域アドバンスト・ラーニング・ネットワーク構築のための委託事業の趣旨・目的、本学がどのように取り組むのか概要説明を掲載している。③は高校生を対象に、高度かつ多様な科目内容を生徒自身の興味・関心に合わせて学べるように様々な内容のミニフォーラムを開催することになっており、ミニフォーラムの開催案内や、開催した内容を随時掲載している。④はイノベティブなグローバル人材を育成するにあたり、教員の学校で行う探究活動の指導能力向上等を目的に、教員対象の研修会等の情報を掲載している。③と④に関しては、本学の取組だけでなく、関西地域に所在する拠点校と管理機関の協力により、生徒や教員を対象とするイベントや研修情報を今年度より掲載している。⑤はwebサイトを閲覧するにあたり、事前にスケジュール等が確認できるように機能を追加した。

次年度は上記①～⑤の取組を継続し、関西ブロック内で開催される行事予定をwebページで示す。また、できるだけ早くミニフォーラム等の情報を発信し、イノベティブなグローバル人材を育成する取組を推進する。

### (2) ミニフォーラム等

#### 1. ミニフォーラム

今年度はミニフォーラムを8回実施した。それぞれの内容を以下に報告する。

<第1回>

プログラム名：JICA 関西訪問プログラム

開催日時：令和6年8月20日（火）10：00～13：30

開催場所：JICA 関西

講師：JICA 関西職員・JICA ボランティア経験者（カンボジア/看護師）

内容：以下のプログラムを実施

- ① JICA 関西の事業説明
- ② JICA ボランティア経験者（カンボジア）による体験談発表と質疑応答
- ③ SDGs 展示スペース施設見学・民族衣装体験
- ④ 留学生とのランチ交流会

参加校：大阪教育大学附属高等学校平野校舎、神戸大学附属中等教育学校  
大阪府立八尾高等学校

英語で世界の社会課題を考える放課後活動に参加する生徒を中心に、連携高校、大阪教育大学留学生、大学院生が参加し、日本の国際協力について学び、ODA事業について理解を深め、国際社会との繋がりを考えることを目的に実施した。

JICA 関西職員による事業説明、JICA ボランティアとしてカンボジアに派遣された看護師からのボランティア体験談を聞き、質疑応答の後、施設内の展示スペースに移動し、世界各国で日常的に使われている展示品に触れ、様々な民族衣装を着てみたり、SDGs ゲームで遊び、途上国の生活や文化に触れる体験ができた。

プログラムの最後に、本学留学生等を交え、ケニア料理の弁当を食べながら英語で語り合う、ランチ交流会を行った。

参加した生徒・留学生から多くの質問があり、活発な質疑応答が行われた。また、ランチ交流会では留学生に対して、生徒は英語で話すことにチャレンジする様子うかがえた。

参加生徒からは、「国際協力や多文化理解について知ることができた」「海外でのボランティア活動について詳しく話を聞くことができた」「展示スペースでは、SDGs に関する展示を実際に触れることができ、とても楽しく学ぶことができた」といった声が寄せられた。また、自身の将来を考えたり、日本と途上国との関係や社会的な課題に対する理解が深まった一日となった。



展示ブースを視察する生徒



留学生とのランチ交流会の様子

<第2回>

プログラム名：「教育を考える」課題研究ワークショップ

開催日時：令和6年8月24日（土）10：00～12：00

開催場所：大阪教育大学天王寺キャンパス西館・みらい教育共創館

講師：大阪教育大学 池上 英明特任教授、神藤 隆志特任准教授、尾崎 拓郎准教授、  
仲矢 史雄教授、鈴木 真由子教授、山岡 賢三元特任教授

内容：以下の6つのワークショップから選び、教育課題について考え理解を深める。

- ① これからの日本の英語教育について考えよう！
- ② 子どもの人権について考える～こども基本法施行を受けて～
- ③ 心と身体をつながり学び、体育を深めてみましょう
- ④ プログラミング教材を使った教材研究について考えてみよう
- ⑤ 課題研究の取り組み方～比較と対比でわかる探究のツボ～
- ⑥ キャッシュレス時代の消費者教育～合理的な金銭について考えよう～

参加校：大阪教育大学附属高等学校平野校舎、池田校舎、大阪府立住吉高等学校、泉北高等学校、千里高等学校、神戸大学附属中等教育学校、大阪府立生野高等学校、大手前高等学校、岸和田高等学校、北野高等学校、豊中高等学校、池田高等学校、和泉高等学校、市岡高等学校、桜和高等学校、鳳高等学校、泉陽高等学校、高槻北高等学校、富田林高等学校、寝屋川高等学校、東高等学校、箕面高等学校、八尾高等学校、門真なみはや高等学校、河南高等学校、北千里高等学校、佐野高等学校、清水谷高等学校、大阪府教育センター附属高等学校、槻の木高等学校、登美丘高等学校、東住吉高等学校、布施高等学校、三島高等学校、山田高等学校、奈良県立畝傍高等学校、開智高等学校

上記の6つのワークショップから自身の興味・関心に合わせて1つ選び、「考える、まとめる⇒深める⇒楽しむ！」をテーマに現代の教育課題について、理解を深めることを目的に「教育を考える」課題研究ワークショップを実施した。

生徒はテーマ毎の様々な現代の教育課題について、講師による課題や話題の提供があり、グループワークでの意見交換や発表、体験を通じて、理解を深めました。

参加した生徒からは「日常生活で使えるものでプログラミングが体験できて楽しかった」「グループで話し合うことが想像以上に楽しく、いい経験になりました」「英語教育への関心を深めることができ、将来先生になって英語を教えたいと思った」といったコメントがあり、参加生徒にとっては貴重な体験の機会となった。



意見交換する生徒



プログラミングに取り組む生徒



輪ゴムを使い実験する仲矢教授と生徒



意見をまとめる生徒の様子

### <第3回>

プログラム名：探究を深化させる大学教員による助言講座

開催日時：令和6年10月26日（土）9：30～11：00

開催場所：大阪教育大学天王寺キャンパス中央館

講師：大阪教育大学 瓜生 彩子教授、寺嶋 浩介教授、大内田 裕教授、  
榎木 泰介准教授、王 林鋒特任准教授、岡部 舞特任講師

内容：生徒の発表を通じて、質疑応答を交え大学教員による今後の探究活動を充実させるにあたっての助言を行う。

参加校：大阪教育大学附属高等学校平野校舎、池田校舎、天王寺校舎  
大阪府立天王寺高等学校、和歌山県立星林高等学校

探究活動に取り組む高校生を対象に現在取り組んでいる探究活動の発表を行うとともに、他校の生徒の発表を聞き、互いに学び合うこと、大学教員からの助言を受けて、今後の探究活動をより深化させることを目的に、大学教員による助言講座を開催した。以下のスケジュールのとおり、1グループあたり、生徒による口頭発表10分、質疑応答と大学教員による指導・助言20分の計30分を上限に実施した。

時程	内容
9 : 30~9 : 35	開会挨拶・教員、発表者紹介・アイスブレイク等
9 : 35~10 : 05	発表①（口頭発表 10 分+質疑応答・指導・助言 20 分）
10 : 10~10 : 40	発表②（口頭発表 10 分+質疑応答・指導・助言 20 分）
10 : 40~11 : 00	発表生徒・大学教員交流、閉会挨拶・アンケート回答依頼

講師を担当した本学教員は生徒の発表に対し、研究の進め方や調査方法、悩んでいることや生徒の観点とは違った観点からの助言などを行った。発表後には生徒と本学教員と交流の機会を設け、学校での探究活動を中心に活発な意見交換が行った。また、聴講した生徒は自身が行っている探究活動について個別に大学教員に尋ねるなど、意欲的に参加する様子が伺えた。

参加した生徒からは、「他校の発表や大学の先生方からいつもとは違う考え方、視点の意見を貰えた」「大学の先生から分析の仕方やデータの取り方を様々な視点から聞いた」といったコメントがあり、参加した生徒にとっては今後の探究活動の充実に資する実りのある講座となった。



発表する平野校舎の生徒



助言する大内田 裕教授

#### <第4回>

プログラム名：ベトナムについて学ぶワークショップ

「ベトナムと日本人、何が違う？共生のための第一歩」

開催日時：令和6年11月20日（水）15：30～16：30

開催場所：大阪教育大学附属高等学校平野校舎

実施方法：対面及び同時双方向でのハイブリッド方式

講師：四條畷学園大学 講師 宮嶋 愛弓氏（JICA ボランティア経験者/作業療法士）  
小山 文夫氏（JICA ボランティア経験者/中小企業振興）

内容：JICA でのボランティア活動やベトナムと日本社会の文化的背景等について学ぶとともに、高校生として何ができるか、ワークショップを通じて考える。

参加校：大阪教育大学附属高等学校平野校舎、香川県教育委員会

現在、技能実習生や日本語学校の生徒として多くの若者が来日するベトナムでは、レストランなども増え、観光を目的にベトナムを旅行する日本人も増える中、同じ社会で生きるベトナムの人々との共生と理解を主な目的として、ベトナムに焦点をあてたワークショップを開催した。

平野校舎の教員をファシリテーターとし、ベトナムで JICA ボランティア経験がある講師 2 名を招いて、現地での活動の様子を振り返り、帰国後の日本で感じることを話していただいた。日本とベトナムとの社会的文化的背景の違い、共生のためのヒント、理解し合える社会を目指して何ができるのかを考えながら、多くの参加者からの質疑応答をとおして、理解を深めた。



ワークショップの様子

#### <第 5 回>

プログラム名：カンボジア講演会

開催日時：令和 6 年 12 月 2 日（月）15：20～16：10

開催場所：大阪教育大学附属高等学校平野校舎

実施方法：対面及び同時双方向でのハイブリッド方式

講師：株式会社 NATURAL VANUE 吉田 南美氏

内容：カンボジアで勤務する方から、勤務の実態や課題を聞き、海外について知ることや自身の将来について考える。

参加校：大阪教育大学附属高等学校平野校舎、天王寺校舎、大阪府立夕陽丘高等学校

カンボジアで支援活動を行うことになった動機や実際行われてきた活動について、現状および課題を理解し、支援活動への関心を高め、高校生としてこれから何ができるかを考えること、カンボジアの文化的背景を学び、日本のことや自分自身について振り返る機会とすることを目的にカンボジア講演会を開催した。講師にはカンボジアで NGO を設立し、村での井戸掘り、カンボジアでの学校建設、小学生に対する奨学金支援、貧困村での女性教育と女性の雇用支援など、多岐に渡ってカンボジアの社会課題に取り組まれた、株式会社 NATURAL VALUE 代表取締役 吉田南美氏に講演いただき、カンボジアについての理解を深めた。

### <第6回>

プログラム名：留学生・教員研修生との交流会

開催日時：令和6年12月14日（土）10：20～12：00

開催場所：大阪教育大学天王寺キャンパス中央館

内 容：SDGs の取組や現状を英語で発表する。SDGs カードゲームを使い、グループに分かれて英語で話し合い、話し合った内容を発表し、各課題についての意見を参加者間で共有しながら自身の考えを深める。

参 加 校：大阪教育大学附属高等学校平野校舎、池田校舎、和歌山県立星林高等学校

本学の留学生（日本文化研修留学生）と教員研修留学生（母国で教員をしている留学生）、大学教員も参加した。3 グループに分かれて留学生とともに、自国の SDGs の取組などを発表するとともに意見交換を行い、SDGs に関するゲームを実施した。英語で意見を伝える機会となり、様々な気づきを得た様子であった。



グループにわかれてディスカッションする様子

### <第7回>

プログラム名：2030SDGs カードゲーム

開催日時：令和6年12月14日（土）10：20～12：00

開催場所：大阪教育大学天王寺キャンパス中央館

講 師：一般社団法人イマココラボ 能戸 俊幸 氏

内 容：SDGs の 17 の目標を達成するために現在から 2030 年までの道のりを体験し、SDGs の本質を理解する。

参 加 校：大阪教育大学附属高等学校平野校舎、池田校舎、和歌山県立星林高等学校  
大阪府立桜和高等学校

SDGs の本質を理解することを目的に一般社団法人イマココラボに講師を依頼し、カードゲーム「2030 SDGs」を実施いただいた。このゲームは SDGs の 17 の目標を 2030 年までに達成する道のりを体験するゲームであり、SDGs の各目標を詳しく学ぶものではなく、「なぜ

SDGs が必要か」と「それによりどんな変化や可能性があるか」を体験的に理解することを目的としたものです。特に、SDGs にあまり関心のない人でも、ゲームを通じて楽しみながら、その本質を理解できるよう設計されており、生徒だけでなく教員も楽しみながらゲームに取り組んでいた。



カードゲーム「2030 SDGs」の様子

#### <第8回>

プログラム名：「ジェンダー視点で診断する社会・教育・メディア」ワークショップ

開催日時：令和7年2月22日（土）14：00～16：00

開催場所：大阪教育大学天王寺キャンパスみらい教育共創館

講師：関西大学名誉教授 久保田 真弓 氏

内容：ジェンダーの概念について体験的に学ぶワークショップ

参加校：大阪教育大学附属高等学校平野校舎、池田校舎、天王寺校舎

関西大学名誉教授 久保田 真弓 先生を講師に招き、関西大学大学院留学生や博士課程学生、本学の留学生協力のもと、体験型ワークショップを実施した。

SDGs の課題の中でも、参加した高校生が英語でも身近な問題として理解しやすい「ジェンダー」を選び実施した。高校生と留学生のグループを作り、英語で意見交換した。それぞれの考えをポストイットに書き込み、白板に張り付け、グルーピングすることで、見えてくるものを共有した。各国の社会・文化的背景の違いから、それぞれの国のジェンダーに関する諸課題を学び、相互に意見交換・意見共有しながら、各国の視点を学び、理解を深めることを目的とした。

ジェンダーに関連するTV広告を見てグループで考えたり、どんな社会・文化的背景がジェンダーについての考え方に影響を与えているかを可視化する「毛糸」を使ったグループ活動などを通じて学びを深めた。

参加した生徒は「留学生の話聞いて文化の違いを学べた」「社会全体がジェンダーについて新しい考えを持ち、アプローチしていく必要があると思った」などといった感想を述べ

られ、久保田先生や留学生から多くの刺激を受けたワークショップとなった。



講義する久保田真弓関西大学名誉教授



毛糸を使ったグループ活動の様子

## 2. 課題研究発表会

プログラム名： 附属平野高校生研究発表会

開催日時：令和7年3月15日（土）13:00~15:45

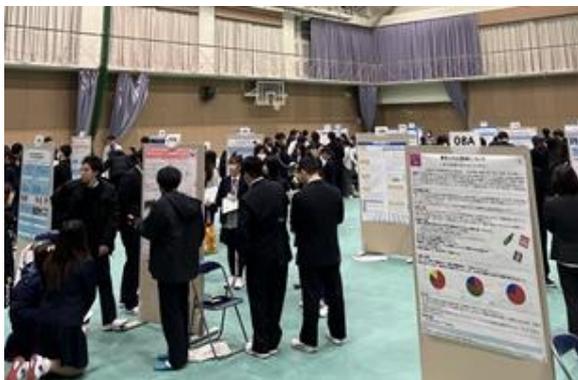
開催場所：大阪教育大学附属高等学校平野校舎

内 容：ポスター発表

参 加 校：大阪教育大学附属高等学校平野校舎、池田校舎、神戸大学附属中等教育学校  
奈良女子大学附属中等教育学校、大阪府立夕陽丘高等学校、桃山学院高等学校  
近畿大学附属高等学校、神戸市立六甲アイランド高等学校  
兵庫県立須磨友が丘高等学校

本学附属高等学校平野校舎で「高校生研究発表会」を開催した。この発表会は関西ブロック関係校等に周知し、本学 WVL 連携校と人材育成校等から 9 校 65 件のポスター発表を行った。発表に対して本学仲矢教授等による助言を行った。

生徒は他の生徒や教員からの質問などを受け、研究を深めるヒントを得たり、他校の生徒の発表を目の当たりにして大きな刺激を受けた様子であった。



課題研究発表会の様子

### (3) 教員向けフォーラム

教員向けフォーラムとして、計6回実施した。それぞれの内容を以下に報告する。

#### <オンデマンドコンテンツの作成>

本学 WWL 拠点校である附属高等学校平野校舎が「総合的な探究の時間」を柱にしたカリキュラムマネジメントを基に、探究活動の指導の参考となるオンデマンドで視聴できるコンテンツを今年度5月に関西ブロック関係校に周知した。このオンデマンドコンテンツは複数のコンテンツで構成されており、教員の隙間時間に視聴できるよう考慮し作成した。

#### <セミナーの実施>

セミナーを計5回開催した。内容について以下のとおり。

・「情報Ⅰ」の力を総合的な探究で活用するには?～受験や社会につなげるために～

開催日時：令和6年5月18日(土)15:00~17:30

開催場所：大阪教育大学天王寺キャンパスみらい教育共創館

講師：(一社)デジタル人材共創連盟 代表理事 鹿野 利春

参加校：大阪府立生野高等学校、鳳高等学校、三国ヶ丘高等学校

近畿大学附属和歌山高等学校

その他：教育委員会関係者、読売新聞、小中学校教員、本学教職大学院生

高校1年生で履修する「情報Ⅰ」の学びを、3年生の受験時まで途切れずに活かすためのカリキュラム構築を目指すにあたり、特に、高校2年生の「総合的な探究の時間」に焦点を当て、「情報Ⅰ」で得た知識とスキルを入試や社会へどう結びつけるか考えるセミナーを実施した。(一社)デジタル人材共創連盟代表理事の鹿野利春氏に講演いただき、教育現場での実践事例発表などを行った。

・探究学習における教育的評価入門

開催日時：令和6年6月22日(土)・7月20日(土)・8月3日(土)13:30~15:40

開催場所：大阪教育大学天王寺キャンパスみらい教育共創館

講師：大阪教育大学 森本 和寿特任講師

参加校：大阪府立生野高等学校、鳳高等学校、三国ヶ丘高等学校

近畿大学附属和歌山高等学校

その他：教育委員会関係者、読売新聞、小中学校教員、本学教職大学院生

セミナーは計3回、探究学習における評価のあり方について、入門的な内容として本学森本 和寿特任講師より講義を行った。

第1回は近年、学習指導要領や教科の編成においても探究学習の重要性が強調されており、探究学習に取り組む意義や進め方について、質疑応答を交えながら実施した。

第2回は、探究において問いづくりをいかにして深めるか、また調べ学習の一步先へ進む

ための情報収集と分析の方法について講義を行った。探究活動を進めていくうちに、生徒は「調べ学習」に終始してしまうことがあります。自身の活動は「探究」になっているのだからかという悩みなど、事例を交えながら講義を行った。

第3回は探究を評価するとはどういうことか、探究の評価はどのように行うのか、理論を中心とした講義と探究評価の実践についてはワークショップを通じ理解を深め、質疑応答も交えながら実施した。

・ICTを活用したハイブリッド型英語授業モデル～国際交流の促進をめざした～

開催日時：令和6年9月21日（土）9：00～12：00

開催場所：大阪教育大学天王寺キャンパス

講師：大阪教育大学 小林 翔特任准教授

シドニー工科大学 平塚 昭子講師 等

参加校：大阪府立豊中高等学校、神戸星城高等学校、北海道札幌北稜高等学校

その他：小中学校教員 等

ICTを活用し海外との国際交流の方法の実演を行った。対面授業と同期型（ビデオ通話）と非同期型（動画、オンライン掲示板、共同編集スライド）のICTを活用したハイブリッド型授業において、対話を効果的に学習に組み込む英語授業での工夫について紹介した。

これらのセミナーは高校教員だけでなく、教育委員会関係者や現職教員、教職大学院生なども参加し、探究学習への関心の高さがうかがえた。また、質疑応答の時間では自校の探究学習と照らし合わせ、自校に還元しようとする様子がうかがえた。

<課題研究研修会の実施>

開催日時：令和6年11月16日（土）9：00～

開催場所：大阪教育大学附属高等学校平野校舎

参加校：奈良女子大学附属中等教育学校、大阪府立四條畷高等学校、四天王寺高等学校

京都教育大学附属高等学校、大阪府立水都国際中学校・高等学校

三重県立名張青峰高等学校、大阪府立松原高等学校

その他：近畿大学附属和歌山中学校、大阪教育大学教職大学院、三重大学教職大学院

立命館大学教職大学院 等

本学WWL拠点校である附属高等学校平野校舎で探究学習研修会を開催した。関西ブロック関係校に周知し、各教科・科目で生徒の「見方・考え方」が働く授業作りのために、概念型学習を取り入れて研究を進めており、今年度は数学と理科、地理総合の研究授業を公開し、その後研究協議と大学教員による分科会を行い、意見交換等を行った。本学WWL連携校教員だけでなく、関西地域の教職大学院生も参加した。

#### (4) 成果報告会（国際会議）等

関西ブロックの各ALネットワークで行われている探究活動の成果発表会について、拠点校に対して、成果発表会や高校生国際会議等に人材育成校の生徒が参加できるように各ALネットワークへ可能な範囲で各ALネットワークに属さない高校の生徒の受入について要請している。本学では例年実施している高校生国際会議を今年度より人材育成校の参加を可能とし人材育成校から参加いただいた。また、本学WWL拠点校である附属高等学校平野校舎主催で課題研究発表会を開催し、本学WWL連携校だけでなく、人材育成校等が発表を通じて交流を行った。ALネットワーク外の生徒にとっては新たな学びを得られるとともに、高校生・学校間の交流の促進にも繋がり、関西ブロックの活動活性化を図りたい。次年度に向けて上述の(1)ホームページの記載内容と重複するが、作成したwebサイトに各ALネットワークのWWL関連行事予定をあらかじめ示すことで、関西ブロックの活性化に繋げる計画である。

#### (5) 広報及び人材育成校の拡充

WWL事業と関わりがなかった高校にイノベティブなグローバル人材育成の必要性と可能性を普及させるにあたり、興味・関心を持った高校に大学教員が事業への呼びかけを行い、1校（桃山学院高等学校）が新たに人材育成校に加わった。引き続き、WWL事業の成果・普及させるためにwebサイトの充実や人材育成校の拡充に取り組む。

### Ⅲ. 会議報告

#### 1. 大阪教育大学地域アドバンスト・ラーニング・ネットワーク関西ブロック推進委員会

##### 大阪教育大学地域アドバンスト・ラーニング・ネットワーク 関西ブロック推進委員会委員名簿

	根拠規程	役職等	氏名
委員長	第4項第1号	副学長	藤井 睦子
副委員長	第4項第2号	学長補佐	鈴木 真由子
	第4項第3号	委員長が指名する職員	榎木 泰介
			大内田 裕
			斐 光雄
			寺嶋 浩介
			仲矢 史雄
			瓜生 彩子
			岡部 舞
			筒井 瑞貴

#### <第1回>

- 1 日時 令和6年5月16日(木) 14:30~15:30
- 2 形態 オンライン(Teams) 図書館3階会議室より配信
- 3 議題 (1) ミニフォーラム・教員向けフォーラムの実施計画について  
(2) AL ネットワーク国際会議等の行事予定の取りまとめについて  
(3) その他
- 4 報告 (1) 広島大学との情報交換 (2/22)  
(2) 第2回ミニフォーラム (3/9) について  
(3) その他

#### <第2回>

- 1 日時 令和7年1月27日(月) 15:00~15:26
- 2 形態 オンライン(Teams)
- 3 議題 (1) 令和7年度事業計画について  
(2) その他
- 4 報告 (1) 令和6年度ミニフォーラム・教員向けフォーラムの実施状況について  
(2) その他